

東松島復興推進員だより(第 32 号)

～地を往きて走らず～

若葉の鮮やかな季節となりました。ここ、東松島市でも緑が鮮やかで、気持ちの良い風が吹き抜けています。今号では JICA 地域復興推進員、東松島市野蒜地域担当の齊藤より、野蒜地域住民の皆さんが取り組まれているハーブ園についてご紹介したいと思います。

野蒜のハーブ園活動が開始したのは平成 28 年度が始まって間もなくでした。この事業を開始するきっかけとなったのは、野蒜まちづくり計画の策定です。野蒜まちづくり協議会は、津波被害により破壊されてしまった地域住民の生活基盤や、野蒜地域の象徴とも言える風光明媚な景観を再び蘇らせ、地域の再生、さらには未来を創造するまちづくり計画の必要性を重んじ、地域の方々のご理解のもと策定検討委員会を設立しました。平成 27 年度内に委員の方々を中心とした会議や、地域から幅広い世代を交えたワークショップを数回実施し、野蒜まちづくり計画を策定しました。本計画は平成 28 年度から 32 年度の 5 年間を実施期間としています。本計画の基本方針は以下の 5 つです。

①高台移転に伴い、新しいコミュニティ環境の形成を図る

②街並み環境の整備を図る

③地域住民の出番づくりを促す環境整備を図る

④元地に集いの場と生産活動の場を設ける

⑤産業振興を図る



野蒜まちづくり計画

ハーブ園はこれらの基本方針に準ずる事業として、新しいコミュニティ環境の形成や、地域住民の出番・集いの場作りのため実施されることとなりました。

旧野蒜市民センターの向かいにあった画地を活用することになりましたが、長い間整備されていなかったため、まず草刈りから始めました。市民センターや地域の方々の協力の下、少しずつ綺麗になりました。さらに土を耕し、ハーブの栽培に適した農園へと整備が進められました。



市民センターや有志で集まった地域の方々と作業



耕運機で土を耕し、環境を整えます。

土づくりが終わると、円形のレイアウトの中心にシンボルツリーを植栽し、煉瓦を組み立てた通路にチップを敷き、地域の方々が散歩などで気軽に立ち寄って楽しんで頂けるようなデザインとなりました。ミントやバジルのほか、東松島市の海岸にも多く生息していた海岸性の多年草ハマボウフウも植えられています。



円を描き、中央にシンボルツリーを植栽



通路も整備し、綺麗になりました。

ハーブ園活動には、インドネシア国バンダ・アチエ市から来日した、JICA 草の根技術協力事業の研修員も参加しました。地域の方々と一緒に作業を行い、終わった後には園で栽培したハーブを使ったお菓子やお茶を楽しみながら、交流会が行われました。研修員は帰国した後、野蒜のハーブ園活動を参考にさっそく自国でも活動を始めたそうです。遠い外国でも野蒜の取り組みを参考にしてもらえるのは嬉しいですね。



ハーブ園でインドネシア研修員と一緒に草取り



おにぎりの握り方を教わる研修員



園面積も少しずつ拡大しています。



野蒜のハーブ園活動の輪は少しずつ広がりを見せ、地域内外の交流の場となりつつあります。暖かい季節となった最近、園の面積も少しずつ拡大しています。「できる範囲で無理せず楽しく皆で作っていきたい。」地域の方々はそのように話しています。野蒜の新名所ハーブ園、東松島市へお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

【推進員だよりバックナンバー：JICA 東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICA は、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
